

いつか迎える「その時」。最期と死後の憂いをなくす専門季刊誌

終活  
読本

ソナエ

2016年夏号

vol.13

定価(本体840円+税)  
NIKKO MOOK

お墓の  
値段

感謝3周年  
誌面一新



豪華プレゼント多数  
手桶、塔婆、樹木葬キット…

疑問氷解

石墓、納骨堂、樹木葬…良い点、注意点  
「自分にふさわしい墓」チェックシート



らしさのある葬儀・おくやみ

蜷川幸雄さん／富田勲さん・白川由美さん



好評 灵場を訪ねる  
葬儀費用は月収の500倍!?  
インドネシア スラウェシ島

余命宣告後の独白『ワイルド7』作者  
故・望月三起也さん

親子で「死」を語る 4つの提案

タブーにするのはトラブルのもと 介護、財産、葬儀…どう切り出す

老後サバイバル術 社会保障制度活用術

どこまで頼れる 年金、介護保険、生活保護

新連載 グラビア いのちつぐ「ひとりびと」



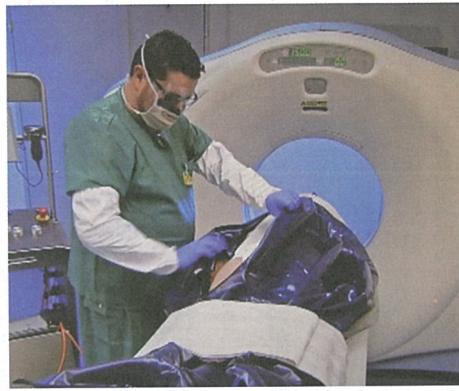
©望月三起也



## 死因究明

### 遺体専用の

日本初 NPOりすシステム



導入される血管造影装置。解剖をすることなく死因の究明をすることができる(説明ビデオより接写)

葬儀や死亡時の事務手続きなどを請け負っている「NPOりすシステム」(東京都)に、死因究明の精度を高めるために「遺体専用の血管造影装置」が導入されたことになった。年内にも利用者の受け入れを始めたい考え。

血管に造影剤を入れて映像解析することで死因究明につなげる。欧州各国では普及に向けた研究などが盛んに行われて死因がはつきりしない事例や医療過誤の疑いがある事例などで活用することで、その後の対応や、遺族の心のケアにつながることが期待されるほか、自分での死に責任を持ちたいという「死者の権利」の拡充」にもつなげたいと考えだ。

りすシステムでは2014年にCT(コンピューター断層撮影装置)で遺体を撮影するA-i(死亡時画像診断)ができる体制を整備。東京都、大阪府の両医師会から医療事故調査関連業務の委託を受けているなどしている。

導入を前に6月17日、装置開発に携わり、日本での学会出席のために来日して

いたスイス・ローザンヌ大学のグラーブ教授(法医学)が、りすシステムスタッフや医療関係者、研究者ら約100人を前に講演。「YES WE(S) CAN!」のフレーズを交えながら、開発の経過や死因究明への有用性、複数の解析結果を使うことで死因究明の精度が上がるなど説明した。教授は「死因究明をする際、遺体に入れて解剖するときに抵抗感情がある日本やイスラム諸国で受け入れやすいのではないか」と話している。

2015年秋から大手町サンケイ・プラザ(東京都)で開催されている「仏教講座」「仏教人生大学」の参加者が毎回130人を超える盛況だ。一般に開放された仏教講座としては異例の多さとなっている。定年退職を迎えて、自分の人生に向き合う時間を持っているようになった団塊世代を中心とした人々に向けて企画された。浄土真宗を開いた親鸞の言行録『歎異抄』の言葉から、自分の人生を振り返り、現代社会の課題を考える内容になっている。

15年秋に「生老病死と向き合う心がまえ」をテーマに3回開催。16年は団塊の世代の仏教入門「歎異抄に学ぶ—異なる歎くところ—」をテーマに九州大谷短期大学の三明智彰学長が5回開催した。産経新聞が後援したほか、東京新聞や婦人公論での支援もあり、告知を見て参加した人が中心に会場は満席となっている。回を重ねごとに参加者は増加してきたという。事務局では「現代の辯説法の光景を見ているようで、仏教に対する社会の関心の高さに驚いている」と話している。

三明智学長が行つた講話は「生死と向き合

## 人生大学

### 東京・大手町の講座が盛況

講演内容の書籍化も実現



講座には毎回多くの人が駆けつけている

う心がまえ』(法藏館)として書籍にまとめられた。そこでは「生死に向き合うとは人生全体に向き合うこと」「生のみがわかれにあらず、死もまたわれらなり」「死を思うから、いまを生きることがはじまる」といったことが書かれている。

三明智学長は私塾「量深学場」を主宰しており、東京江戸川区、調布市などでも講座を開いている。「仏教人生大学」「量深学場」のスケジュールなどは、事務局が運営するウェブサイト「週刊仏教生活」に掲載されている。

『生死と向き合う心がまえ』を5人にプレゼントします。詳しくは6ページ)

みはるとしあき

# 生死と向き合うとは 人生全体に向き合うこと

「生死と向き合う」の「生死」とい

うことですが、親鸞聖人が書かれた『正信偈』に、生死即涅槃なりと証知せしむ。

(証知生死即涅槃)

という言葉があります。

「生死」というのは、普通は「せいし」と読みますが、ここでは「しょうじ」と読みます。「証知」は「あきらかに知る」ということ、経験し体験的に知るという意味です。「証」という字について、親鸞聖人は「証は驗なり」と解説されています。

「生死は、すなわち涅槃なりといふことを証知する」といわれるのですが、生死と涅槃はどういう関係かというと、普通は反対の言葉です。涅槃は、覚りや、覚りの世界のことです。

これは「ニッバーナ」とか「ニルバーナ」というインド語の音写で、

「炎が吹き消された静かな状態」という意味です。「ニルバーナ」という音を聞いて、漢字を当てて「涅槃」と書くようになつたのです。

涅槃は覚りで、煩惱の炎が吹き消されてしまった静かな世界という意味から、「寂靜」ともいわれています。

「生死」の翻訳は「サンサーラ」の翻訳です。別の訳では、「輪廻」とか「流转」ともいわれます。

この生死というのは何を表しているのかというと、現在ただいまの私の生き方が生死なのです。この生死とは、循環する迷い、繰り返す迷いです。これが生死です。

まえ」という題目ですが、そのと、覚りと迷いというのは、切っても切れない関係にあるわけです。

「生死」とは、インド語の「サンサーラ」の翻訳です。別の訳では、「輪廻」とか「流转」ともいわれます。輪廻とは、循環する迷い、繰り返す迷いです。これが生死です。

(自著『生死と向き合う心がまえ』より)

生きの生死というのは、生きるか死ぬかというよりも、その人生全体という問題があるのです。人生といわずに、生死というところに意味があるわけです。



三明智彰九州大谷短期大学学長

【三明智彰】早稲田大学文学部卒、大谷大学大学院で学び、同大助教授などを経て2016年春から九州大谷短期大学学長。『改訂新版 歎異抄講義(上下)』『親鸞の阿闍世觀-苦惱と救い-』(ともに法藏館)など著書多数。

【仏教人生大学】仏教を通じて現代社会の諸問題を学ぶ社会人向け講座。産経新聞社後援。事務局は☎ 03・5879・4501